

遊 悠 心

—松山から全国へ—

いよいよ松山から日本YEG会長が誕生！

「県内主要青年団体の若きリーダー 特別三者対談」

- 県内政財界からの激励
- 平成22年度活動報告・年間事業報告
- 卒業生紹介 ■ 22年度組織図
- 「一歩！結集した力で踏みだそう」加藤秀章平成23年度会長



vol.
50

有限会社ビー・クラフト

代表取締役 永田 稔



(有)ビー・クラフトは、屋号のようなオリジナルデザインを、一つ一つ手作りで創り続ける事を目指した総合サイン会社です。屋内外看板・のぼり・テント・ネオン・LED照明など、そのお店に必要な「サイン」をデザイン・企画設計・施工まで一貫して取り扱っています。



トラックマーケティング

工事現場等
足場養生幕



現在主流の屋外用インクジェットの出力機では、のぼりや横断幕、車のラッピングシートや大型画像広告塔まで、多種多様にわたり取り扱いさせていただいております。

その他にも、各種サイン、特殊印刷、販促品グッズなども少数から承っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。お見積り、現場調査無料です！

B/CRAFT 有限会社ビー・クラフト

BE GOING CRAFT WORKS

TEL 0120-310-321

伊予市下西川481 tel:089-983-6269 fax:089-983-6297



株式会社ブリヂストン松山タイヤセンター

取締役販売部長 加藤秀章



街の安心ショップ「ミスタータイヤマン」は、松山市間屋町にあるタイヤのプロがいるブリヂストンのタイヤ専門店です。地域のお客様にとって、便利で身近なお店をモットーに、お客様の安心走行のため、タイヤやオイル、バッテリー交換、カー用品の取付など、スタッフが親切な対応と適切なアドバイスをさせていただきます。



特殊なタイヤでもご相談下さい。



電話でのお見積りも承ります。

また、個人乗用車タイヤの販売はもちろん、法人様の営業車両・トラック・ショベルカーなどの特殊なタイヤも扱っております。

愛車の安心・安全のために無料安全点検も行っておりますので、お気軽に「ミスタータイヤマン松山」にお立ち寄り下さい。

ボクらは街の安心ショップ

ミスタータイヤマン

松山市間屋町9番39号

営業時間/平日9:00~19:00

日祝9:00~18:00

ミスタータイヤマン松山店

TEL 089 (922) 2345

<http://shikoku.mr-tireman-shop.jp/matsuyama/>

松山商工会議所青年部 会員企業紹介

ホテルアビス松山

営業部長 山中 茂



ホテルアビス松山は、愛媛県庁の目の前にあるアクセス最高のビジネスホテルです。客室は120室で全室ゆとりのワイドベッドを使用しており、ビジネスや旅の疲れを癒してくれます。館内もレストランやインターネットなど便利な施設が充実し、お客様の快適なご滞在をサポートいたします。



ゆったりサイズのワイドベッド



レストランで
朝食無料サービス!

朝食はパン、コーヒー、ジュース他、和食メニューも取り揃えた和洋食バイキングを無料でご用意しております。また夏場限定のビールサービスなどお客様が喜ばれる各種イベントも開催しており、リピーターが非常に多いホテルです。松山のビジネスホテルに泊まるなら、ぜひホテルアビス松山をご利用下さい。

株式会社フロートランチマーケット

代表取締役 浮田宏行



フロートランチマーケットは、松山市久米窪田町にある「マジョブレッソカフェ」を運営している会社です。「幼いマジョが大人になっていつかは空を飛ぶ」という夢物語をカフェに表現しています。そば粉のクレープ「ガレット」や名物「昭和のチーズケーキ」などが看板商品です。ネット販売でケーキの1ホール売りもしています。



名物! 昭和のチーズケーキがオススメ



お役にたてることはありませんか?

グループ会社のドコモショップ松山城南店は、人気のスマートフォンから話題の最新機種まで、各種取り揃えております。新規契約や機種変更だけでなく、故障や修理、経費削減など、携帯電話についてのご相談はお気軽にお申し付けください。親切丁寧にご対応させていただきます。

【マジョブレッソカフェ】

松山市久米窪田町292-1
営業時間/9:00~18:00 月曜日定休
TEL 089 (975) 1888
www.majyo-presso-cafe.com

【ドコモショップ松山城南店】

伊予郡砥部町拾町154-1
営業時間/10:00~19:00 年中無休
TEL 089 (957) 2233
携帯 090-1572-2715

Hotel Abis 愛媛県庁前
ホテルアビス松山
<http://www.hotel-abis.com>

松山市一番町4-1-8
TEL 089 (941) 9003
Fax 089 (941) 9005

【平成23年度 日本Y E Gスローガン】

共に創ろう次代の日本！ 今こそY E Gが 地域の礎となる！



平成23年度 日本Y E G会長
兵頭 弘章

私たちが愛してやまないわが国「日本」はいま、かつて世界第二位を誇ったGDPは他国に抜かれるなど、国際的な日本ブランドも下降の一途をたどっています。国内では人口減少、少子高齢化、政局の不安定に加え、日本固有の文化・国民の道徳に至るまで、これまでの常識が通用しない危機的な状況におかれています。

こうした状況の中、私たちY E Gは今まで以上に地域社会の中での役割が大きくなり、無から有を生み出す発想力と次代を先駆ける行動力が求められていると考えています。

そして、おりしも来年度創立三十周年という大きな節目を迎える日本Y E Gは、約四百単会の連合会であり、また日本商工会議所の青年部という全国的組織として、その役割を明確にし、確固たる信念のもと力強い組織に発展していくるよう足固めをしていかなければならないと思っています。「企業の寿命30年説」というものがあります。

「く小粒でも活きのいいのは三十年、その後さらに充実を図りながら変革を続けて、以前の強さを維持し

ていくことが次へのステージである。」

つまり、過去をしっかりと振り返り、検証を基にして、新しい時代にあつた組織の新たな創造を目指すことなくはならないのだと思います。

日本Y E Gは約四百単会、そして約二万七千名のメンバーを擁する組織です。

この巨大な組織は一つの企業体（バーチャルコーポレーション）Y E Gとして、企業の活動サイクルであるP（計画）D（実行）C（検証）A（改善）を実践する必要があります。

そこで、私たち日本Y E Gのこれまでの活動とその結果について、会員の声を聞き、「綱領」「指針」



に照らし合わせて検証を行い、これからの日本Y E Gの進む「道」を固める礎として未来に繋げてまいりたいと思います。

また、私たち二万七千名のメンバー一人一人が、より力強い経営者となっていくことが、地域の経済に貢献するばかりでなく、その集合体としてのY E Gが内外に影響力を発揮できるものと思います。そのため、経営者としての資質向上のための研修や、二万七千名が経営する事業所発展のためのビジネスネットワークを支援してまいります。

共に創ろう次代の日本！
今こそY E Gが
地域の礎となる！

今こそ、「豊かで住みよい郷土づくり」に貢献する」という確固たる信念を持ち、私たち四百単会がそれぞれの地域の礎となり、そしてその「力」を結集することで、次代の日本、そして次代の日本Y E Gを共に創ってまいります。

松山から全国へ！！

松山YEGの兵頭氏が日本YEG会長に就任する平成23年度、時を同じくして財団法人全国法人会総連合青年部連絡協議会会長、公益社団法人日本青年会議所副会頭が共に松山から誕生する。
日本経済界を代表する青年団体の若きリーダーに就任する二者が松山と日本の未来について熱く語る！（前会 広報委員会担当副会長 浮田素行）

この度はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

さて、平成二十三年度、松山YEGの兵頭氏が全国組織である日本YEGの会長に就任する運びとなりました。また、全法連青連協会長、日本青年会議所副会頭にもそれぞれ、武村氏、井川氏が就任されるということで、青年経済人で構成する全国組織のトップが共にこの松山から誕生することになります。そこで、この松山から全国に羽ばたく皆さんの熱い思いやお考えをお聞きしたいと思います。

まず自己紹介を兼ねて、各団体の概要からお聞かせ下さい。すでに一月に就任されている井川副会頭からお願いします。

井川 公益社団法人日本青年会議所（日本J.C.）には、全国に七百八の青年会議所があり、それが日本青年会議所に加盟するという形を取っています。会員数は約四万人、修業、奉仕、友情の三信条のもと、自己の研鑽、地域へのサービスなど様々な活動を通して友情を築きあげることによって、市民意識の変革を行っていく事が目的の団体



井川 直樹（いかわ なおき）
愛媛パッケージ（株）代表取締役
平成23年1月～ 公益社団法人日本青年会議所 副会頭

兵頭 私ども商工会議所青年部は略称で

です。日本での活動は、一九五一年からですが、そもそも一九二〇年代にセントルイスのひとりの青年が始めた運動が起源となります。現在は一千百十五の国と地域、メンバーは約二十万人に上り、アメリカやフランスの大統領も輩出しております。私自身は、平成十六年に松山J.C.に入会、昨年、五十八代の理事長を務めさせてもらいました。平成二十三年度は日本J.C.副会頭として各地域をまわって事業説明をおこなっています。

YEGと表記、呼称します。YEGとは「若き起業家集団」の略でして、YEGは商工会議所の一翼を担う団体として位置づけられています。会議所は地域経済、地域の発展に寄与することが元々の目的。我々はその青年部として、企業の発展が地域の発展につながるという立場で活動しております。そのため、ボランティア等がメインの活動ではなく、まず各々の事業が円滑にできているか、社長として何ができるかという研修をしながら地域の発展のために活動しております。

このたび、四月から会長に就任することになりました日本YEGは、四百一の単会、会員数は二万七千名にのぼります。この組織は元々、各地域に単会が発足するなかで、それを取りまとめる全国的組織が必要というところで昭和五十七年に誕生した、「コスモス型」の組織です。なので、例えば東京、大阪、名古屋といった大都市の会議所にはYEGが無い。そういった意味で本当地域の中小企業の集まりが我々YEGだと理解してもらっていいと思います。

武村 法人会青年部はYEGさんと同様に、



兵頭 弘章（ひょうどう ひろあき）
税理士法人ジャパンビジネスパートナー 代表社員
平成23年4月～ 日本商工会議所青年部会長

全国法人会総連合という全国組織の中の一委員会という位置づけで、正式名称は財団法人全国法人会総連合青年部連絡協議会、略して全法連青連協と申します。親会は各地方に四百四十二の単会があり、会員企業数約百万社で構成されています。税知識の普及、納税意識の高揚という明確な基本理念を持ち、税に特化した団体と言えらると思います。活動内容としては、税を納めるという基本的なことから、各種講習、講演会を含め一般の方にも税の大切さや、どのように使われ世の中が成り立っているかを広報しています。青年部会はその中でも



武村 秀行 (たけむら ひでゆき)
西建環境株式会社 専務取締役
平成22年4月～ 全国法人会総連合青年部会連席協議会 会長

実働部隊的な位置付けになっていて、日本全国統一の活動として、小、中学生を対象に租税教育等をおこなっています。

座右の銘は「君子終日乾乾シ夕べに惕若たり」です。これは中国の易経の教えで「過去の経験に基づき今日の道を定め、それを蓄積して次の道を進もう」という意味。まさに青年期である今の時期に実践すべき言葉とされています。私は自身がより良い経営者になると共に、こういう考え方に共感を得る仲間を一人でも増やしたいと思っています。

——続きまして、就任に向けて(されて)の抱負や目標、あるいはチャレンジしたいことについてはいかがでしょう。

井川 日本JICは国家的問題というものを取り扱っています。それぞれ地域、次世代教育、国際、総務の5グループに分けて活動を行っています。私は地域の担当になりますが、そのなかで目指していることは「日本の文化力の復興による明るく元気な地域の実現」です。文化力とは日本人が持つ昔からの精神性、美意識といったもの。

例えば昨今、刹那的な生き方が多くなっている中で、古来我々が先祖から受け継いできた美意識というものを復興させたい。それが経営であれば、利益のみを追求するだけでなく、徳の溢れた企業経営とはどういうものか、そういったことを推進すること。「明るく元気な地域」を追求したい。チャレンジしたい事は、我々の活動はどうしても自分達が満足する事業になりがちなどところがある。それを公益という視点に立ち、多くの市民に参画していただけるような運動展開を模索していきたい。来年度日本JICは六十周年を向かえる。その六十周年にして初めて本当の意味で市民の皆さんと共に地域のことを考え、国家のことを考える、そんな団体になるべく一つ一つ運動を展開していきたい。

兵頭 私が日本YEGの会長に就任するにあたって掲げたスローガンは「共に創ろう次代の日本。今こそYEGが地域の礎となる」というものです。地域の発展なくして国の発展は無いという考えに立ち、会員企業の発展に日本YEGとして何ができるのか、二万七千名のビジネスネットワークを生かして、その情報交換を支援していきたい。また、YEGは中小企業の代表者や後継者が多い団体。従って、「経営者としての資質の向上」というテーマで、本来あるべき、経営に役立つ事業をしていきたいと思っております。

また、企業は三十年説というものがあるが、私は日本YEGの二十九年度の会長。そういう意味で、新たなステージへと進化するため、これまでの検証を行い、親会である日本商工会議所に対し、若さを前面に様々な提案をぶつけ、最終的には政府に提言していくような、今までに無いような

活動をしていきたいと思っております。

武村 私は今年の七月から全国法人会青年部の会長に就任します。任期は二年間。この間に法人会は、公益法人制度改革に沿って公益法人の認定を受けなければならない。公益としての価値があるか否か、いわば過去何十年の活動が認められるか重要な時期であります。公益法人認定は各地の四百四十二単位会並びに県連がそれぞれに申請するわけですが、次年度は全法連が本申請を提出し、それに沿って全ての単位会並びに県連が申請を開始します。

法人会では租税教育を公益事業の前面に押し出して活動をおこなっていますが、問題となるのが各単位会間の情報の共有です。松山のように会員数が七千を超える会もあれば、十数人の小さな単位会もある。そうしたなかで租税教育や公益法人申請のノウハウ等を共有し、またそれをフィードバックすることで、法人会全体としてネットワークパワーを導き出そうとしています。こういった新しいことを始めているこの時期に青年部会のトップとしてその責任の重さをひしひしと感じている次第です。

——今、全国各地で地方経済の衰退が叫ばれていますが、松山の発展のためにどのような取り組みをされていますか。

井川 私自身、やはりこの松山をどの様に輝かせていくかを常に考えています。そうしたなか松山JICでは、全国会員大会誘致に取り組んでいます。この大会は、開催地の発展とその市民意識、運動意識の高揚が目的。松山市は「坂の上の雲」のまちづくりに全国に向けて発信しているが、日本が経済成長の壁にぶつかっている中で、地域

に対する価値観や概念が改められている。日本が今まさに変革の時代を迎えている。この小説から読み取る精神性の部分をこの松山に根付かせ、人づくり、街づくりへと展開する。全国会員大会の誘致を、そのスタートラインにしたいと思っております。ちなみに全国会員大会では、約一万五千人の会員が四日間にわたり開催地に逗留します。参加者一人が十人に「松山よかったよ」と言ってもらえれば、全国大会を開催した成果につながると思います。私は今、日本JICに出向させてもらいながら「あの井川が出てくる松山なら行って見たい」と言われるよう、しっかりと活動をしていきたいと思っております。

兵頭 YEGでは、昨年三月に全国大会を開催しました。おかげ様で、地方開催では過去最多となる約四千人のメンバーに越えし頂きました。一年経った今でも、全国のYEGメンバーは度々松山に來られます。そういう意味ではやはり、全国大会をきっかけに、松山の良さを知ってもらえたと思います。

日本YEGの会長となる次年度は「また松山に来てください」というのではなく、全国を飛び回って、各単位の活動状況や取り組みなどを松山にフィードバックしたい。同時に、松山YEGの情報も他単位に提供するなど情報交換を進めていきたい。そういうことを次のステップとしてやるべきではないかと思っております。

武村 法人会では、平成十九年に全国大会にあたる全国青年の集いというものを開催し、私は大会会長を務めました。当時の大会スローガンは「愛から始まる未来力」で、この文言は今でも私の名刺に刷り込んでい

ます。大会から三年経った今でも、名刺交換をした際に「愛媛での大会は良かった」と言ってもらえるほど、皆さんの記憶に残っている。

先ほど井川副会長が言われたように、「坂の上の雲」という小説は三人の青年が希望を持って坂の上を一步一步上っていく姿を描いている。明治維新もそうだが、どんなときでも時代が変わる時は必ず若者が主役です。今日集まった三団体は、ほぼ年齢層が同じですが、若者が本気で知恵を出し、勇気を振り絞って新しい一歩を踏み出す大切さというものを今後も発信していきたい。またその熱意、意欲を共に語り合っていきたいと思えます。

—— 今日集まった三団体の今後の連携の可能性について教えて下さい。

武村 ほぼ同じ年齢層で構成されている団体なので、目的は若干異なるとしても、目指すべき成果というものは大きな違いは無いと思っています。現に松山法人会青年部会の中には、Y E G、J Cに所属している会員が大勢いる。集まる機会があれば、その人の輪が新しい力になる。マンパワーを結集して何かを進めていければと思っています。

兵頭 先日、京都で日本Y E G、日本J C、全国商工会青年部連合会、全国中小企業青年中央会の四経済団体で友好団体調印式を行いました。ただ、全国組織と地域では温度差がある。しかし、地域は地域で、横の連携はしていくべきだと思います。各団体で手法に違いはあるが「地域が好きだ、日本が好きだ、どうにかしたい」という思いは一緒。それを相互に理解しながら、団体の

垣根を越えて連携していきたい。行政への提言についても、一団体でするより、共同声明という形で提言した方がアピール力がある。また税関連は法人会、経済・産業関連はY E Gと、各団体にはそれぞれ得手不得手があるので、そのあたりをうまく連携できないか。はじめはお互いの総会にトップが訪問するとか、交流会を設けるとか、そういった事から始めていきたい。

井川 昨夏、松山J C主催で開催した松山シンポジウムの後に三団体の交流会を開かせていただきました。この時は水問題をテーマに取り上げましたが、次代を担う責任世代として、地域における問題を共有し、解決に向けて議論をすることは大変意義のあることだと思います。法人会は税制、Y E Gはビジネスという所が理念の根本にあり、相容れない部分もあると思います。しかし、J Cも本来の目的は街づくりやボランティアではなく市民意識啓蒙運動にあります。つまり、様々な活動を通して人と人との繋がりを強化し、市民運動を醸成していくというものです。この点で、前回のシンポジウムのような機会を作り、地域の問題を共有できればと思います。

それと同時に我々は国家的問題にも取り組まなければならない。J Cでは、領土や憲法について議論をしている。尖閣や竹島、北方領土のような防人的機能を有する諸島部に対し、日本は自国の領土領海を守るために何をすべきか。また、憲法問題では、改憲か、護憲かという二元論ではなく、憲法改正国民投票法が施行された今、もし我々が正しい目を持っていなければ、間違った改憲がなされるかもしれない。こうした中で憲法に対しての認識をしっかりと持ち、市民のリテラシー能力を高めるような

活動に取り組んでいる。こういう問題を共に考える機会ができればと思います。また、先ほど兵頭会長が言われたように共同で声明を出すような事ができれば、より推進力、発信力が高まるのではないかと。そういう意味でも、是非連携を進めていけたらと思います。

兵頭 日本はこれまで、過去の歴史をきっちり総括して次代に繋げることをしてこなかった。しかし、国際情勢が目まぐるしく変わるなかで、今それをしないと国益が損なわれる恐れもある。経済も税制も、国家が根本にあるが、確固たる国の理念が今の日本には見受けられない。これは全国組織として取り組まなければならない問題ではないでしょうか。

武村 少子高齢化や年金問題などは税制と非常に関係が深い。法人会でも結婚支援や子育て環境整備、定年の延長などの事業を愛媛県から受託し、このような問題解決に取り組んでいる。結局、各団体共に切り口は別でも「いい街、地域、国づくり」という方向性は変わらない。

兵頭 そうなんです。各団体とも、絶対目的は一緒で、手法が違うだけです。そういう認識を各団体で共有し、日本の問題については全国組織で我々が取り組み、地域は地域で会長を中心に連携してもらって、共に幸せな地域、将来性のある日本をつくっていききたいと思えます。

講評



今回の対談を通して、各団体メンバーの夢と希望を胸に、全国組織へと出向する三名の高い志を感じました。同じ故郷「松山」を愛する者としてとても誇りに思います。

私の好きな言葉の一つに「才知を得たものはせいぜい一代限りではあるが、誠実な心は万代に及ぶ」という言葉があります。今回ご参加頂いた三名に共通する思い、松山を愛する「誠実な心」は、この対談を通して万代に受け継がれていくのではないのでしょうか。

皆様のご参加、ご協力により歴史に残る記念対談となりました。松山Y E Gを代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。

広報担当副会長

浮田 宏行



県内政財界からの激励



全国に誇れる
「わがまち松山」
発信へ

松山市長
野志 克仁

松山商工会議所青年部会長 兵頭弘章様におかれましては、平成23年度日本商工会議所青年部会長への御就任、誠におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。これもひとえに、兵頭様を始め、松山商工会議所青年部のたゆまぬ努力と卓越した実績の賜物と拝察いたします。

この度の御就任は、本市にとりましても大変名誉なことであるとともに、全国に向けて、「1人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山」を発信する絶好の機会でありますので、より一層連携を深め、松山の活性化に向けて共に努力をしてまいりたいと考えております。

兵頭様のますますの御活躍と、松山商工会議所青年部の更なる御発展を心からお祈り申し上げます。激励の言葉といたします。



愛媛県で培った
経験をもとに
さらなる大舞台へ

愛媛県知事
中村 時広

兵頭弘章様の日本商工会議所青年部会長御就任を、心からお祝い申し上げます。

若さと情熱を持った青年経済人の代表として、愛媛で培った経験をもとに、日本商工会議所青年部というさらに大きな舞台で、地域経済社会の発展のために活躍されますことを期待しております。

本県でも、「愛顔あふれる愛媛県」の実現に向けて、全国に誇れる愛媛の底力を最大限に活かした地域活性化に全力で取り組んで参ります。

次代の地域経済を担う経営者の育成と豊かで明るい社会づくりに、引き続き御尽力いただきますとともに、ますますの御健勝を祈念いたします。



青年経済人の
先導役として
志高く

松山商工会議所女性会 会長
久保 素子

兵頭弘章様の平成23年度日本商工会議所青年部会長へのご就任、誠におめでとうございます。

これまで共に交流を深めてきた松山商工会議所女性会にとりましても、大変大きな喜びでございます。青年部と共に地域経済社会の発展を図る商工会議所活動の一翼を担う団体として、より一層連携を密にしながら積極的に支援して参りたいと考えております。

どうか1年間、健康に留意されますとともに、次代を担う青年経済人の先導役として、志高くご活躍されますことをお祈り申し上げます。



若き起業家集団の
リーダーとして
大いに期待

松山商工会議所 会頭
白石 省三

兵頭弘章君の平成23年度日本商工会議所青年部会長ご就任、誠におめでとうございます。松山はもとより愛媛県から同会長を輩出するのは初めてのことでございまして、松山商工会議所にとりましても大きな喜びであり、全力を挙げてご支援申し上げたいと考えております。

日本経済は、長期化するデフレに加えて、人口減少社会の到来や少子高齢化などの課題を抱えており、大変困難な時期ではございますが、次代の地域経済を担う2万7千名の「若き起業家集団(YEG)」を率いるリーダーとして、また小説「坂の上の雲」の主人公のように志の高い気概でもって、全国を舞台にご活躍されますことを心よりご期待申し上げます。

ラストスパート!

総務委員長 永田 稔



総務委員会では、22年度スローガン「新生松山YEG～新たなステージへの挑戦～」を志に掲げ、いろんな新しい取り組みに挑戦してきました。次世代に繋げる為の組織連携を目指した諸会議、現況に合った規約内規見直し、職務精査と会員管理の再構築、組織強化の一貫として「繁盛塾」の複製事業など、そして地域との共生活動事業「愛媛マラソン」へのボランティア活動を通じて、松山YEGとして今我々が出来る事をいろんな角度から再確認する事ができ、新しい「一歩」の足掛かりになったのではないかと考えています。

ご協力頂きました皆さん、本当にありがとうございました。

研修委員会1年を振り返って

研修委員長 福岡 正人



研修委員会でのおもな仕事は2ヵ月に一度の全体の例会・懇親会の運営と年に2回の新入会員研修会の運営です。中でも例会運営では青年部の皆様の少しでも学びの場になればと委員会のメンバーで色んなアイデアを出し合ってきました。講演の内容や講師への依頼。また、当日の司会や受付などメンバー全員での役割も多く委員会のみなさんに協力してもらい大変助けられました。

12月の忘年会では替え歌とダンスと特に踊ってくれた3人は素晴らしいかったです。また、忘年会での委員会参加者全員で替え歌を歌い皆で一つになった結果の1位表彰に感動しました。本当に仲の良い委員会でした。藤原副会長はじめ鳥口副委員長、大西副委員長、長野幹事そして委員会の皆様楽しい委員会をありがとうございました。

親会へ要望書を提出しました

提言委員長 五木田和樹



今年の活動内容としては、まずいろいろなお話を聞いて、勉強するため、松山市長や道後のホテル経営者をお招きし、講演をしていただきました。その中で松山はやはり観光資源が多くあることを再認識し、更なる「観光による経済の活性化について」の研究・調査をしました。次に親会に向けての活動として、門田専務理事をお迎えし青年部に対して何を求められているのか講演をしていただきました。若者の意見と力を発揮してほしいとの講演をしていただきました。更に2月には松山商工会議所の白石会頭にYEG活動への協力を目的とした要望書を提出いたしました。

委員会報告

松山まつりに全力投球

地域連携委員長 東 陽一



地域連携委員会は松山まつりにおける市民参加の実行部隊です。平成16年度に、一般市民がより気楽・気軽・自由に飛び入り参加できる『どななんぞ達』として誕生した市民参加連も平成22年度で7回目、その名も『ええやないか松っちゃ達』へと進化し事前登録者数・最終参加人数・認知度共に年々増加しております。去る8月の第45回松山まつりにおきましても大盛況のうちに完結することができたものと自負しております。市民参加連が今後より一層松山まつりの顔となり、またYEGの代名詞として定着・発展するようひとりでも多くの方に携わっていただくようお願いいたします。

各事業への参加に感謝します

コミュニケーション委員長 大野 哲也



コミュニケーション委員会では、遊悠杯の開催のほか、四国中央市での愛媛県大会、四国ブロック大会への参加の呼びかけをおこないました。

遊悠杯は5月16日(日)レスパシティで開催。25名の参加をいただき、好天にも恵まれ無事終了しました。優勝は研修委員会の長野幹事でした。

愛媛県大会は6月12日(土)、四国中央市で開催されました。松山YEGからは58名が参加しました。記念講演は板東英二氏、全国大会の打上げを含んだ懇親会でした。

四国ブロック大会は10月3日(日)、阿波池田市で開催され、松山YEGからは33名が参加しました。あいにくの雨で分科会が一部中止となりましたが盛会に終わりました。

メンバーの皆様には各事業へ参加して頂き、本当にありがとうございました。

田中秀樹さんお疲れ様でした

ビジネス委員長 麻田 晃司



ビジネス委員会は今年度新設された委員会、新たなビジネスモデルの構築を目的に、田中秀樹副会長のもとスタートしました。

青年部マスターズの大西浩司先輩を講師にお招きし、自社ブランドの立ち上げについての苦勞話などを聞かせていただきました。また専門家のご意見を伺うべく、大手食品メーカーで商品開発をされていた岸様をお招きして御講義いただきました。

また、愛媛の特産物を使ったB-1グルメを目指そうと「B-1カレー」を試みました。その後、市場調査を兼ねて10月の道後観月祭に出品したところ、当日準備分が無事完売。YEGのみんなで何かを作り上げる喜びと可能性を感じました。

この一年間、ビジネス委員会の皆様ありがとうございました。

あっという間の一年でした

広報委員長 平田 昭子

広報委員会はホームページと遊悠の発刊が主な仕事です。今年度はメンバーの積極的な参加を促すため、委員会内でホームページ班と遊悠班に分けて作業を行いました。ホームページでは、長山リーダーを中心に迅速な更新を心がけました。また、兵頭会長のブログも新たに作ったので、是非皆さんも覗いてみてください。遊悠班は、鶴川リーダーが各メンバーと一緒に紙面作成にあたりました。最初は手探りで進める委員会でしたが、回を重ねるごとにメンバーの団結が強まったように思います。

忘年会では、青野副委員長がリーダーとなりAKB48を極めました。浮田副会長をはじめ、舞台上立ったメンバーはすね毛まで刺って頑張ってもらいました。ちなみに私は衣装担当として参加しました。3位という結果に終わり残念でしたが、団結力は「ピカイチ」だったと思っています。一年間有り難うございました。



22年度活動報告

年間事業報告

平成22年度

4月

- 21日 通常会員総会
4月度例会



5月

- 12日 松山商工会議所 女性会総会
- 16日 遊悠杯 グランドゴルフ大会
(マスターズ交流)



6月

- 12日 第28回商工会議所青年部
愛媛県大会(四国中央市)
- 23日 6月度例会



7月

- 3日 四国Yランドリーグ



8月

- 12・13日 松山まつり野球拳おどり
「松つちやま連」(市民参加連)運営
- 24日 8月度例会
マスターズ交流会



9月

- 2~3日 第27回四国ブロック大会
(徳島県三好市)
- 12日 新入会員研修会
- 20日 臨時会員総会/10月度例会



10月

- 6日 商工3団体スポーツ交流会
- 25~27日 第28回日本YEG全国会長研修会
(香川県高松市)



12月

- 21日 臨時会員総会/12月度例会
忘年会(委員対抗女装&カラオケ大会)



1月

- 18日 松山商工会議所 女性会新年会



2月

- 6日 愛媛マラソン(ボランティア参加)
- 23日 2月度例会(卒業式)
- 17~20日 日本YEG第30回全国大会
(宮城県仙台市)



3月

- 10日 繁盛塾
新入会員研修会

一年間おつかれさまでした。

卒業生紹介



YEG卒業を目前に控え、日増しに名残惜しい気持ちでいっぱいになっております。丸11年間お世話になりました。本当にありがとうございます。 東陽一



また、みんなで、楽しく呑みましょう。

田中 秀樹



「学び」は大きい。YEGの活動で得たもの「ソーシャルビジネス」。会長も出向もさせて頂き、多くの仲間へ感謝です。 井上 幸一



短い間でしたが、共に活動させていただきありがとうございました。感謝を込めて、若きメンバーにエールを送ります。「みんな～、がんばれ～!」また笑顔で会いましょう!

中村 雅子



いろいろお世話になりました。皆さん頑張ってください。 尾山 勇

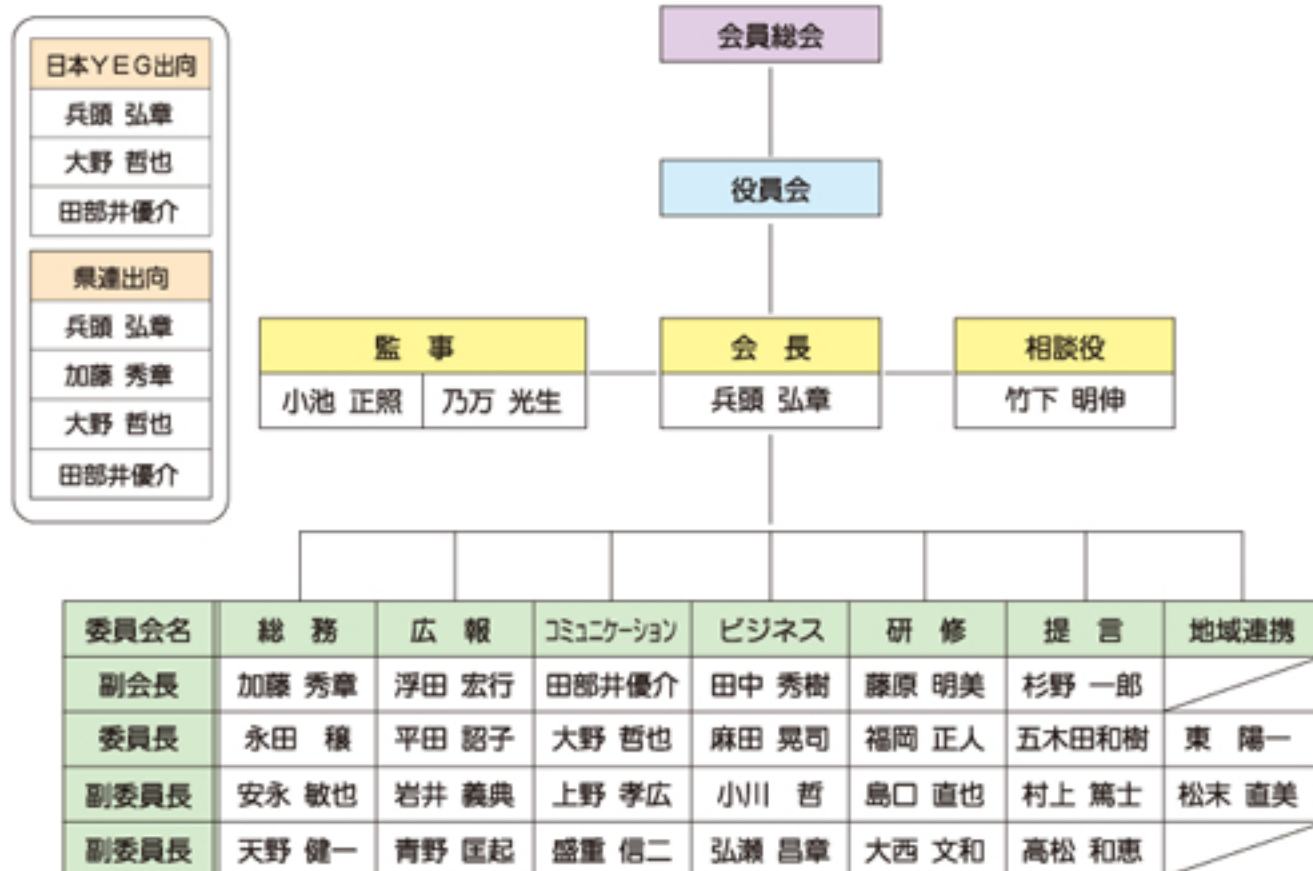


マスターズに行っても、宜しくお祈りします。

安永 敏也

ご卒業おめでとうございます!

22年度 松山商工会議所青年部役員組織図



一歩!

—Step by Step!—

～結集した力で踏みだそう～

わくわくする夢は「今」をわくわくさせる

運営方針

人が良き想いを抱き、素晴らしい夢を持ち、行動することによって、更に夢のある未来が拓かれていく。

こんな厳しい経済情勢だからこそ、時代の変化を真っ向から見据え、立ち向かっていく。

明るい未来を想い、願うものが集い、切磋琢磨し新しい時代をつくる。

YEGとして夢に挑み、YEGとして地域を愛し、YEGを誇りに思う。

私たちの手で作っていかうではありませんか。

勇気をもって一歩を踏み出しましょう。



松山YEG 平成23年度会長
加藤 秀章

運営の心構え

①透明性をもって共有する。

分かりやすく目的・目標・実行・成果・財務などを共有する事で、意識を向けてあと一歩！踏み出せるようにします。

②時間を意識する。

「Time is Life」貴重な時間を使つてのYEG活動です。

時間を意識し、計画をたて実現に向けて行動する事でさらに有意義な時間を作り出して行くために一歩を踏み出します。

③当たり前基準をかえる。

「なぜ?」「何のために?」「どうしたら出来る?」を考え一歩を踏み出すことで勇気をもって当り前の基準を変えていく事でさらなるステージへ踏み出します。

④早い行動を意識する。

「Pi! Pa! の法則」びっ!とひらめいたら ぱっ!と行動。「匂」を意識することで、びっくりするくらい早い実行力をもって踏み出します。

⑤継続的な改善をする。

「行動したら次の現実!」前に進むことによって新しいことが起こってきます。

「変えていくもの」は積極的に変える。「変えてはならないもの」はより深めていきます。継続的な改善をすることによって5年後10年後もさらに活性化して、さらに誇りに思えるYEGであるために一歩踏み出します。

松山商工会議所 青年部 会員募集

私たちと一緒に頑張りませんか!!

※平成22年度現在 青年経済人団体として約180人が活動しています。



みんなで
松山を盛り上げよう!!

松山で働く社会人・企業人として、地域経済の活性と自己研鑽に挑戦しよう。

地域経済の活性化に 努めています。

松山のYEG会員は約180人。それぞれが協力しつつ地域経済の活性化を目指しています。また松山のみならず日本全国には約2万人の会員がいます。地域と全国、それぞれのビジネスが広がるきっかけがあります。



松山で開催された全国大会

自己のビジネスを 盛り上げよう。

会員企業それぞれのビジネスを盛り上げていくことも大切なことです。松山YEGには一人では決して得られない情報や知恵を得て、互いに切磋琢磨しながら成長する、励まし合い、助け合う仲間がいます。



委員会での企業PR

住み良い楽しい地域づくりに 貢献しています。

地域を住みよく楽しくすることは、それぞれの家族がいきいきと生活するため、経営活動をスムーズにするための基盤となります。私たちは「松山まつり」への協力を通じて、地域づくりに貢献しています。



松山まつり「松っちゃんまつり」

YEGの主な活動概要

- 経済交流事業
 - 異業種間の情報交換
 - 地域発展のための講習会
 - 松山まつりへの参加・協力
 - 他YEGとの交流
- 総会 ■ 例会(2ヶ月に1回) ■ 委員会(毎月開催)

入会希望
お問合せ

松山商工会議所 地域振興部 〒790-0067 松山市大手町2丁目5番地7
TEL.089-941-4111 FAX.089-947-3126
URL:<http://www.matsuyama-yeg.com/> mail:kiyasu@jemcci.jp (担当:喜安)

※入会資格: 松山商工会議所会員事務所の経営者またはその役員、並びに代表者から推薦のあった従業員。満年齢20歳以上49歳までの方。
※年会費: 42,000円(青年部会費)
・松山商工会議所の会費が別途かかります。